

日本文学講座

[講座紹介] 古代から現代に至るまで書き伝えられ読み継がれてきた日本語になる文学の精華——いまを生きるわたくしたちの心をゆり動かす作品やその注釈の数々を、本文に即しながら、いきいきと読みほぐしていきます。

時間

土曜日 13:30~15:30

場所

文化センター ほか※
別館 3階視聴覚教室

定員

60名

受講料

2,100円

回	日 程	テーマ (内 容) / 講 師
1	5月30日	<p>「平安期かなふみ再読」</p> <p>表語文字である漢字を脱化しながら、表音文字である「かな」を創り出した古代の日本人——かなを用いて自らの思考・感情を表現しようとした平安王朝びとの模索のあとを、古典作品を通してあらためて辿りなおします。</p> <p>講師 西 耕生 (愛媛大学名誉教授)</p>
2	6月6日	<p>「伊予の女性たちの文化活動—長谷部菊圃を中心に—」</p> <p>江戸時代の周桑地域には、俳諧だけでなく和歌に親しむ人々が多くおり、女性だけの歌会も開かれていました。また、幕末期の小松では長谷部菊圃の活躍が注目されます。江戸時代の東予の女性の文化活動に着目します。</p> <p>講師 松井 忍 (東雲女子大学名誉教授)</p>
3	7月18日	<p>「漱石散歩：西洋近代と絵画」</p> <p>夏目漱石の小説には、西洋近代の絵画が数多く登場します。それは絵画好きというだけではなく、絵画が西洋とは何かを知るための手がかりであったからです。絵画を通して、漱石の眼に映った近代を考えてみましょう。</p> <p>講師 中根 隆行 (愛媛大学法文学部教授)</p>
4	9月12日	<p>「本居宣長『古今集遠鏡』『美濃の家づと』を読む—その2—」</p> <p>昨年度に引き続き、本居宣長『古今集遠鏡』と『美濃の家づと』を取り上げます。2025年の大河ドラマ「べらぼう」の時代に話されていた近世の言葉を味わっていきましょう。</p> <p>講師 清田 朗裕 (愛媛大学教育学部講師)</p>
5	10月3日	<p>「異本で読む平家物語—〈重衡生捕〉—」</p> <p>今回で14回目になる「異本で読む平家物語」では、一ノ谷の戦いにおける平重衡の生け捕りの場面を取り上げます。重衡は父清盛の命で南都(奈良)に派遣され、戦いの最中に南都を炎上させてしまった人物としても有名です。</p> <p>講師 小助川 元太 (愛媛大学教育学部教授)</p>
6	11月7日	<p>「井上靖『天平の薨』」</p> <p>昭和32年、作者50歳の時に、「中央公論」に連載された歴史小説です。唐に留学した若い僧たちの人間像と、苦難を乗り越え日本に戒律を伝えた唐の高僧鑑真の姿を読み解き、井上靖の歴史小説の特徴にせまっていきます。</p> <p>講師 越智 隆浩 (愛光学園教諭)</p>
7	12月19日 ※生涯学習 センター	<p>「新居浜出身の俳人、品川鈴子と山口誓子について」</p> <p>新居浜出身の品川鈴子(1932-2016)は住友化学に勤めた後、俳句界の巨人の山口誓子(元住友社員)に師事して俳句修行に励みます。今回は彼女と師の誓子の逸話を紹介しながら、その俳句人生や俳句文芸の特徴を考える予定です。</p> <p>講師 青木 亮人 (愛媛大学教育学部教授)</p>